

【本文】

水あれば魚すむ、林あれば鳥来る、蓬萊山には玉多く、摩黎山には梅檀生ず。麗水の山には金あり。今此の所も此くの如し。仏菩薩の住み給ふ功德聚の砌なり。多くの月日を送り、読誦し奉る所の法華經の功德は虚空にも余りぬべし。然るを毎年度々の御参詣には、無始の罪障も定めて今生一世に消滅すべきか。弥はげむべし、はげむべ

【背景と大意】

本抄は、弘安三(一二八〇)年十月八日、日蓮大聖人五十九歳の御時、四条金吾が領地・信濃国殿岡(現在の長野県飯田市)で収穫した米を御供養された篤志に対する返礼のお手紙で、別名を「殿岡書」とも称されます。

内容は、金吾との過去の事柄を述懐されながら、その強盛な信心によって後生菩提は疑いないと仰せられています。また、種々の法難を法華經の行者として受けた日蓮が住する身延山は、諸仏・諸菩薩等の住む功德聚の所であり、そこに度々参詣する金吾はその功德により、無始以来の謗法罪障を今生において消滅するだろうと示されています。結びとして、これ以後も一層の信心に住するよう促され、本抄を結ばれています。

し。

【通釈】

水があれば魚が住む、林があれば鳥が飛来する、蓬萊山には玉(宝石)が多く、摩黎山には梅檀が生じる。麗水の山には黄金がある。今この(日蓮が住する)所も同様である。仏菩薩が住まわれる功德が聚まる所である。(身延入山以来)多くの月日を送り、読誦した法華經の功德は大空にも満ち溢れているに違いない。然るに毎年度々の参詣によって、(あなたの)無始からの罪障もきつと今生一世のうちに消滅するであろう。いよいよ励みなさい。

い、励みなさい。

【主な語句の解説】

蓬萊山：古代中国における伝説上の神山。仙人が住み、不死の薬、金銀の宮殿があるとされた。  
摩黎山：南インド、マラクタ国の南方にあったとされる山の名。優れた香木である梅檀を産出するという。  
麗水：中国浙江省の河川の名で、多くの金を産出したといわれる。一説には長江上流部(金沙江)とも。  
功德聚：功德が欠けることなく聚まるの意。聚まるどころ。漫荼羅の異称。  
虚空：ここでは大空・天空の意。  
無始の罪障：久遠の過去から犯してきた成仏の妨げとなる多くの悪業。

文永十一（一二七四）年九月、四条金吾は念仏宗の強信者である主君・江間氏に対し折伏を行いました。大聖人は主君を折伏した金吾に対し、与同罪を免れる正しい行為であると称えられた上で、今後は二障四魔が現れ難が起るであろうから、用心するよう諭されています。そのお言葉通り、金吾は主君から不興を買い、滅俸左遷の領地替えを命じられ、同僚からも讒言や命を狙われる事態となったのです。さらに建治三（一二七七）年六月には、桑ヶ谷問答において「法座を乱した」との虚偽の訴えにより、主君から法華信仰を捨てる起請文（誓約書）を書くように命じられます。

しかし金吾は、固い信心を貫き、主君にはこれまで以上の忠誠と忍耐をもって仕えました。そのような中、主君が疫病に倒れる、そこで、医術の心得のある金吾が治療に全力を尽くし快方に向かうと、主君の信頼も回復し勘気も解かれたのです。

やがて金吾は出仕の供に加えられ、所領の返還・加増等の功德に浴することとなりました。私達も金吾のように、諸難が競い起ころうとも、強盛な信心で乗り越え、その実証を示してまいりたいものです。

特に、日々の信仰のなかで、与同罪を免れる〝〃 謗法与同の罪を恐れる〝〃ということに留意すべきです。大聖人が、「謗法を責めずして成仏を願はゞ、火の中に水を求め、水の中に火を尋ぬるが如くなるべし」（曾谷殿御返事・御書一〇四〇）と仰せのように、不幸の根源となる謗法をしつかりと破折し、信仰を実践していくことが大切である。

### ○功德寿の砌、登山参詣の功德

大聖人御在世の信徒は常に大聖人を渴仰し、直接お会いできることを無上の喜びとしていました。現在、大聖人の御魂は本門戒壇の大御本尊として総本山におわします。また、拝読の御文に「今此の所も此くの如し。仏菩薩の住み給ふ功德聚の砌なり」と仰せの「功德聚の砌」とは、総本山大石寺にほかなりません。よつて、登山する者には「毎年度々の御参詣には、無始の罪障も定めて今生一世に消滅すべきか」と仰せの通り、絶大な功德が存するのです。

本年は、宗祖日蓮大聖人御聖誕八百年を慶祝申し上げる記念総登山が行われ、全世界の信徒が嬉々として登山参詣されています。

### ○日如上人御指南

折伏は思うだけでは達成できません。思うだけでは理の仏法であります。御先師日頭上人は、折伏について「動けば智慧が涌く」と御指南されております。（中略）

折伏を行じていけば、おのずと智慧が涌き、誓願達成へ結びついていくのであります。（大日蓮・令和五年六月号）

今月はお盆休みなどもあり、普段より家族で過ごす時間を取れる方が多いと思います。この機会に一緒にお寺へ参詣し、折伏に、先祖供養にと、家族全員で仏道修行に励むことが大切です。

未だ入信していない身近な親類・縁者に目を向け、正法に導く努力を忘れてはなりません。皆で自行化他にわたる修行を心掛け、一家和樂の信心で大功德を頂戴してまいりましょう。